ザ AZABU
Community Information Paper
No.68 July 18, 2025
発行／港区麻布地区総合支所
編集／ザ・AZABU編集室　〒106-8515 東京都港区六本木5-16-45
電話／03-5114-8812　ファックス／03-3583-3782
暮らしの疑問は、「みなとコール」でお答えします。電話／03-5472-3710
麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙

アートな麻布に魅せられて㉟ 全日本海員組合本部会館

ピカピカの超高層ビルが増え続ける六本木交差点近くで、築60年のオフィスビルが改修工事を終えた。大切な歴史を継承しながら、今後も末永く使用するための機能が付加され、一部の施設が地域にもひらかれた。

地下1階ロビー、照明器具や建具類は竣工時から大切に使われている

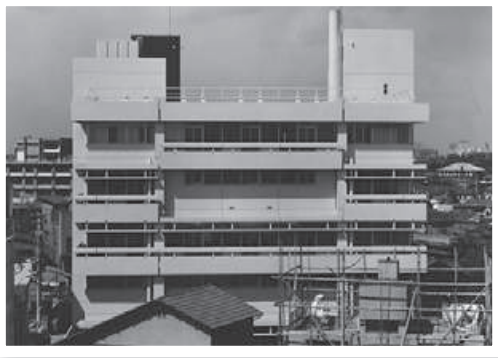
六本木西公園から眺める外観

サンクンガーデン

全日本海員組合と六本木の歴史

全日本海員組合は、海運業や水産業に従事する船員が、所属会社などを越えて産業全体でひとつに団結した、日本唯一の産業別単一労働組合である。大正10（1921）年の結成以来神戸に本部を置いたが、戦後、「国政により近い」東京への移転を決める。都内複数の候補地から六本木が選ばれた理由は、東京湾や霞ヶ関官庁へのアクセスの良さに加え、地価も比較的安かったからという。

本部会館は昭和37（1962）年に着工。当時の六本木は、2年後の東京オリンピック開催にむけて、六本木通り沿いの建物が解体されて道路が拡張され、道路の上下に高速道路と地下鉄日比谷線の建設が進む、大きな変貌期にあった。昭和39（1964）年竣工直後の写真を見ると、周囲はまだ低層の建物しか無く、モダンでスタイリッシュな6階建ての白いビルは、ひときわ大きく輝いている。ビルの屋上から海も見えたという。



六本木通り側から撮影した竣工直後の姿（全日本海員組合提供）

本部会館建物の高い評価

本部会館の設計者は、前川國男建築事務所から独立したばかりの大高正人。後に建築のみならず都市計画の分野でも建築界を牽引した人物だ。大高の「人が快適に働けて、街の景観になる」建物を、全日本海員組合は丁寧に使用して美しい状態で保全した。その建築的価値とともに歴史的・文化的な価値が高く評価され、平成29（2017）年にDOCOMOMO Japan＊の選定建築物に認定される。

＊20世紀の建築における重要な潮流であった「モダン・ムーブメントの建築」の調査・記録、保存・再活用の提案等を行う国際団体の日本支部。令和7（2025）年4月時点の選定建築物は全国で290件。うち麻布地区は、当本部会館と国際文化会館（前川國男・坂倉準三・吉村順三共同設計、六本木5丁目）の2件である。

地域にひらかれた施設

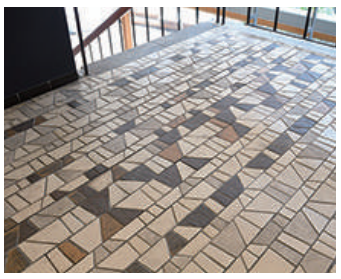
ビル改修に伴い、展示室と図書資料室が新設されて一般公開されている（平日10時～17時）。充実した展示と図書資料から学ぶことは多く、特に「島国である日本の暮らしには海員の働きが欠かせないこと」、「民間の船舶と船員が戦争に徴用された悲劇を繰り返してはいけないこと」を強く実感する。展示室へのアプローチとなっているロビーとサンクンガーデンは、空から光が降り注ぐ、美しく居心地の良いスペースだ。本部会館と六本木通りを繋ぐタイルの小路も整備され、隣接するJSSビル1階の「Roppongi Coffee」から挽きたてのコーヒーの香りが漂う。

歴史的建築物のなかに置かれた贅沢な「知」と「美」の空間が、地域の宝として末永く愛され、大切に利用されることを願ってやまない。

子供の目線も考慮して丁寧に作られた展示室

海と船に関する資料を揃えた図書資料室

子供も大人も楽しめる操船シミュレーター（全日本海員組合提供）



アートな床タイルも竣工時のまま

●取材協力
全日本海員組合（JSU）　港区六本木7-15-26　https://www.jsu.or.jp/
総務局 齋藤洋局長、竹岡優樹さん、庄司沙絵さん、片岡史緒さん
（株）梅ノ木文化計畫 木原進CEO、千葉大学大学院 頴原澄子准教授

（取材／高柳由紀子、八巻綾子　文／八巻綾子）

麻布びと

未来へ残したい麻布の声

東京タワーの建設工事も見守ってきたという戸松さん。1955（昭和30）年建立の心光院本堂は国登録有形文化財。

東京タワーの真下、東麻布の地に1393（明徳4）年創建の名刹・浄土宗心光院があります。住職の戸松義晴さんは、1953（昭和28）年生まれ。現在、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会の理事長を務める一方で、「DJボウズ」のペンネームで機関紙に音楽に関する記事を連載したこともある大の音楽愛好家でもあります。保育園から大学までのほとんどが徒歩圏内であったという“生粋の麻布っ子”、戸松さんにお話を伺いました。

東京タワーの麓（ふもと）から、〝素顔のままで〟街と人をつなぐDJボウズ

浄土宗心光院住職
戸松義晴（とまつよしはる）さん（71歳）

戸松さんは心光院の五十代目にあたるそうですが、その歴史についてお聞かせください。

心光院の起源は室町時代に増上寺の学寮として設けられたことに遡ります。江戸時代には増上寺別院となり、その後、芝赤羽橋に移転。長い歴史を経て1950（昭和25）年に区画整理に伴い、現在の地に移りました。戸松家が住職を務めるようになってからは私で三代目となります。

保育園から大学まで、大学一年時を除いて徒歩通学だったとか。

そうですね。心光院が近隣の子供たちのために開いた心光保育園（現在は閉園・飯倉保育園に移管）に始まり、麻布小、芝中学・高校、そして慶應義塾大学に進学しました。その後は仏教はじめ宗教を学ぶため大正大学大学院、さらにハーバード大学神学大学院（Harvard Divinity School）に留学しました。中高時代は卓球部に所属し、大学時代では仲間と出張DJの活動をしていました。一日8時間音楽を聴いていたこともあります（笑）。

「DJボウズ」としても知られる戸松さん。音楽との関わりについてお聞きすると、「なぜ音楽が好きになったのか理由は自分でもよくわからないんです」と笑いつつ、夕食時にクラシックレコードが流れていた家庭環境が影響したのかもしれないと振り返ります。中学2年で音楽にのめり込み、アルバイトで得たお金でオーディオ機器を揃え、テープ編集やDJ活動を始めました。中学2年の時に最初に買ったレコードはビートルズの「プリーズ・プリーズ・ミー」だったとか。

ジャンルも多岐にわたり、ひとつに絞るのは難しいとのことですが、若い頃はモータウン系のソウルミュージックに強く惹かれたといいます。音楽を通じて英語を覚えた経験が、後のアメリカ留学に役立ったと笑顔で語ってくださいました。

音楽漬けの学生時代から、住職になる決意をされた経緯は？

子供の頃からお経は習っていましたが、年に数回、行事の手伝いをする程度で、両親は放任主義でした。大学4年の時、アルバイトをしていた音楽制作会社から就職の打診を受け、このまま入社するか寺を継ぐかの選択を迫られました。その時、幼い頃から可愛がってくれた檀家さんと会えなくなるのが寂しいと感じ、心光院を継ぐ決心をしました。

DJボウズ、イチ推し！フィラデルフィア・ソウルを代表するヴォーカル・グループ「スタイリスティックス」による1971年リリースのデビュー・アルバム。

モータウン系の貴重なレコードが並ぶコレクション。戸松さん曰く「絶対に売らない！」との事。

江戸名所図会『赤羽心光院』提供　心光院HPより

生まれ育った麻布について、どのように感じておられますか。

麻布というと高級住宅地のイメージがありますが、私が麻布小に通っていた頃は商店や銭湯（本誌64号「麻布の軌跡」）、長屋も多く、庶民的な雰囲気もありました。落ち着いた高級住宅街と下町の面影が同居しているところが麻布の魅力だと思います。

そして、住んでいる人がずっと住み続けられるような街であってほしいと願っています。

五代将軍綱吉公の生母・桂昌院も信奉した「お竹」のお竹如来像と流し板（港区登録有形文化財）を祀るお竹堂。

戸松さんは、地域の未来についても思いを巡らせています。人と人との関わりを大切にしたいという思いから、町会や若者の集まりに寺を会場として提供、本誌66号「地域社会のゆくえ」で登場いただいた麻布台商店街会長・伊澤諒太さんも、「寺に集うひとり」だそうです。

また、災害時における宗教施設の被災者受け入れにも取り組もうとしています。2025年4月28日、戸松さんの所属する東京都宗教連盟は東京都と包括協定を結び、都内約4,000か所の宗教施設を避難所や支援拠点として活用する体制を整えました。戸松さんは特に、避難所生活が困難な障害のある方の受け入れにも力を入れたいと、具体的な方法を模索しています。“Don’t manipulate yourself”（「自分に正直に、信じることをきちんと言葉にする」）。アメリカ留学で得たこの信念を今も大切にしているそうです。

もうひとつ、心に刻んでいるのが、ビリー・ジョエルの名曲“Just the way you are”（素顔のままで）。「多様性に富んだ社会の中ではまずありのままの自分を受け入れることが、他者を認め、誰かのために役に立つことにつながるのではないでしょうか」

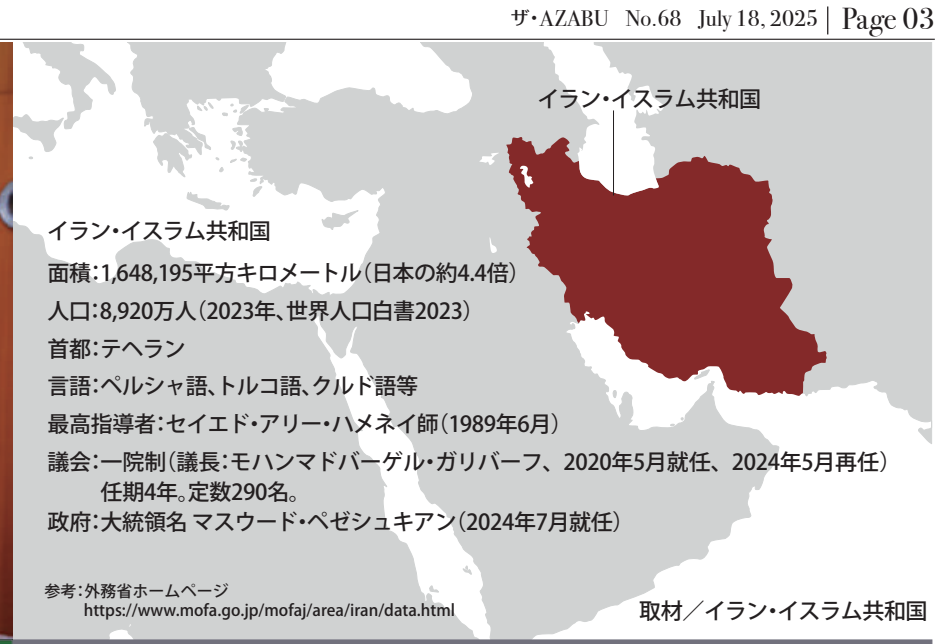
数々の責任ある仕事を明るく軽やかにこなしながら、飾らない笑顔で語る戸松さん。その姿は、まさに“素顔のままに”街と人をつなぐ存在でした。

東京タワーを望む、1743（寛保3）年建築の心光院表門（国登録有形文化財）は人気の撮影スポット。

浄土宗 心光院　港区東麻布1-1-5　URL shinkoin.com

（取材／石橋克彦、飯泉千種、佐藤正子、高柳由紀子、田中康寛、Sumiko、堀切道子、山崎絢加　文／飯泉千種、山崎絢加）

外務省に奉職し33年目、直近では在ベルギー大使兼在ルクセンブルク大使兼在欧州連合（EU）大使、外務大臣補佐官、外務省欧州局長というご経歴。シルクのペルシャ絨毯の装飾の前で。



イラン・イスラム共和国
面積：1,648,195平方キロメートル（日本の約4.4倍）
人口：8,920万人（2023年、世界人口白書2023）
首都：テヘラン
言語：ペルシャ語、トルコ語、クルド語等
最高指導者：セイエド・アリー・ハメネイ師（1989年6月）
議会：一院制（議長：モハンマドバーゲル・ガリバーフ、2020年5月就任、2024年5月再任）
任期4年。定数290名。
政府：大統領名 マスウード・ペゼシュキアン（2024年7月就任）

参考：外務省ホームページ
https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/iran/data.html

取材／イラン・イスラム共和国

大使を訪ねて
麻布の"世界"から

Islamic Republic of Iran

おもてなしの心、女性の社会進出、社会問題など 報道からは見えないイランのお国事情

薬園坂道沿いの塀に描かれた、美しい建物や風景の壁画を目にしている方も多いのでは。いっぽうで日本人はイスラム圏の方と直接接する機会は少ないだろう。私たちが関心を持って楽しみに訪問したのは、イラン・イスラム共和国大使館。2023年3月に赴任されたペイマン・セアダット（Peiman SEADAT）特命全権大使（以下大使）にインタビューした。

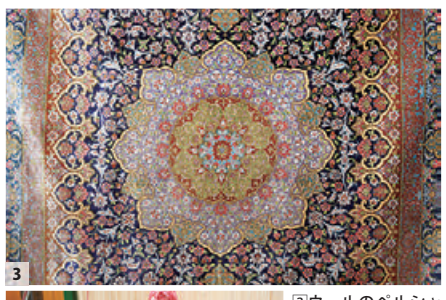
1 大使館の地階にある工芸品を並べたホール。
2 堂々としたモダンなコンクリート造の建物。

「タアロフ」の精神を大切にする

公邸内のペルシャ絨毯の美しさが際立つ広々した応接室に現れた大使は、落ち着きと風格を漂わせる。饒舌でありながら、質問者の目をじっと見つめ言葉を丹念に選んで話されるのが印象的だ。

イラン人の国民性、生活をお聞きしてみると「年長者を敬い、ホスピタリティ、礼節、おもてなしの心を大切にする『タアロフ』の精神が挙げられます。例えば自宅で食事会を催す時には、ゲストに喜んでほしくてとても豪華な料理を用意します。帰り際はソファ、廊下で、玄関に至るまで別れを惜しみ30分位かかることも」とおっしゃる。そしてふだんは絨毯の上に靴を脱いで正座、あるいはあぐらをかいて車座になってくつろぐのが習慣で、昔は"こたつ"もあったとか。主食の一つであるお米を鍋で調理する文化もあり、おこげも好むとのこと。日本との幾つかの共通項があることがわかり、親近感がわき話が弾む。

また、日本人について「社会における礼儀、秩序、規律正しさは、意識されていないかもしれませんが大変際立っています。調和、ゆったりとしたリズムが感じられ、時に決定に時間がかかりますが、熟慮していることがわかります。そして謙虚さがあります。人は謙虚であればあるほど偉大であると私は考えます」とお話し下さり、恐縮する思いで伺った。



3 ウールのペルシャ絨毯は床に敷き、シルク製は壁に飾るのが一般的だそう。
4 通常は数人で手織りをするが、一人で1枚を仕上げたものは高級品とのこと。

女性の社会進出

イスラム圏の女性と聞くと保守的なイメージがあるが、1979年イラン・イスラム革命以降、イランでの女性の社会進出には目覚しいものがあるという。男性のように2年の徴兵制度がないので勉強や活動に充てる時間があり、近年ではパイロットやエンジニアなどの職種にも女性が多くなっているそうだ。「私の妻も大学教授、医師であり、娘は薬剤師として仕事をしています」と、家族への尊敬の念をにじませる。「例えば国会議員など定数を設け女性の数を増やそうとしている国もあります。しかし私は、専門性や知見、体力の点でのタフさを含め男性、女性を問わず、適正であるから雇用するものと考えます」

また、イランには宗教上の習慣があまりない日本人にはぴんとこない面もある。例えば女性が身に着ける"ヒジャブ"のことなどだ。「何事もその国独自の文化や宗教的な歴史の流れの中でとらえ理解したいと思います」。さらに「その多様性こそが世界が美しい理由ではないでしょうか。世界共通の普遍的な価値と共に、国による違いを認め合うことが大切ですね」と熱く語られる。

近年の社会問題

一方で共働き等による、とくに都市部における社会の変化も指摘する。例えば昔なら父母・祖父母が老いても家で世話をするのが当たり前だったが、ここ10年ほどは老人施設が増えてきた。食事はデリバリーに頼ることも多く、"時短"重視のライフスタイルに。また都市人口が増え地方の過疎化といった一極集中など、そのあたりは日本とは違わない現実があるようだ。

東京での過ごし方とこれから

大使のオフは、健康維持も兼ねて長時間散歩をすること。明治通りをなぜか進行方向の"左側の歩道"を歩くのを好まれるというお話は印象的だった。「テヘランの町は碁盤の目のように整然としていますが、東京は入り組んでいて5時間位迷ってしまい交番でたずねたこともあるのです」。歩きながら思索に耽っておられるのだろうか。

「長年様々な国を外交官として訪問し、学ぶことが多かったです。外交は本を読むことだけでなく、経験を通して苦労して身に付けるテクニックが必要で、終わりがありません」。続けて「テヘランは私には大き過ぎる町。生まれ育った故郷に戻り、静かな環境の中で外交官の経験を生かした本を執筆したり教鞭をとるなどして過ごしたいと思っています」と、退官後のお話も伺え、外交官という仕事に対してのプライドや熱い思いが伝わってきた。

＊＊＊

インタビューは2時間余り、他にも子どもと教育、大学受験、また世界に誇るペルシャ絨毯の話など多岐にわたった。その後、大使館内のホール、アート常設展にて絢爛豪華な数々の工芸品の説明を自ら丹念にして下さり、記念撮影に応じて下さるなどのおもてなしを受けた。委員一同、豊かな気持ちに満たされ帰途についた。

ホールにて。大使（中央）とともに、カラフルな民族衣装を着用した取材班。

5 トルコ石の小片を貼り付けたフィールーゼ・クービー。トルコ石の最古で最大の鉱山の一つがイラン北東部にある。
6 真鍮、金、銀などに釘や金槌を使い模様を浮き出させるガラム・ザニー。
7 撥を使って奏でる伝統的な打楽器サントゥール。
8 象嵌細工のハータム・カーリーは三角形を並べてモザイクのように装飾する工芸。

天井が印象的な中東ならではのバザール。

街中より山脈も望める首都テヘラン。大気汚染も近年問題になっているそう。

KISH ISLANDはエメラルドグリーンが広がる美しいビーチリゾート。

港区南麻布3-13-9
https://japan.mfa.gov.ir/jp

●写真提供／9 10 11 イラン・イスラム共和国大使館　（取材／飯泉千種、鍵谷芳勝、佐藤正子、高柳由紀子、田中亜紀、Mai S.、山崎絢加　文／田中亜紀、Mai S.）

まちのお役だち 18

戦後80年、都立中央図書館の裏側へ
――麻布の知の拠点を訪ねて

膨大な資料が整然と並ぶバックヤード。棚には時を刻むように新聞の原紙、古地図、地域資料、専門書等が静かに息づいていた。本の大敵であるカビを防ぐために、温湿度管理が徹底され、入口には粘着マットが設置されている。また、万が一の災害に備えて被災資料救済セットが用意されていた。戦後80年を迎えた今、この知の拠点がどのように機能し、麻布地域にとってどんな価値を持つのか。図書館の裏側を知ることで、その真価が見えてきた。

●戦災を逃れた資料の保管

都立中央図書館は、首都・東京の公立図書館として前身の都立日比谷図書館の機能を継承し、関東大震災や東京大空襲から救われた蔵書を守り、日々あらたな資料を収集し、52年間、都民と麻布の地域に住む人にとっての学習・調査研究を支援している。

●約35万冊の開架資料を支える閉架書庫

蔵書は、利用者が棚からとって閲覧可能な開架資料と請求依頼して職員が閉架式書庫から取り出す閉架資料の2つの種類がある。刊行年の古い資料、特に劣化しやすい資料や貴重資料は閉架式書庫で管理されている。

●各階の特徴

エントランスから中に入ると、1階新聞閲覧コーナーでは全国紙、地方紙、専門紙が並ぶ。中央ホールには端末が設置されており、オンラインデータベースを利用して新聞や雑誌記事をキーワード検索できる。また、都市東京の郷土資料と古地図、地域誌、住宅地図、電話帳などが揃うコーナーもある。

3階には地方出身者が自身のルーツを調べるきっかけづくりにもなる地方史コーナーを用意している。

5階の特別文庫室では江戸時代後期から明治時代中期の貴重資料を所蔵している。江戸城造営関係資料といった国の重要文化財、戦火を逃れた図書などが所蔵されている。これらは、都立図書館ホームページにある「TOKYOアーカイブ」から、特別文庫室等のデジタル化した江戸・東京の歴史資料をオンラインで閲覧できる。

図書館の楽しみ方

利用者登録の手続きなしで、居住区に関係なく利用できるのが都立中央図書館の魅力。館外貸出を行っていないため、閲覧したい資料はほぼ館内にある。たとえば、「昔の東京の地図を見たい」「家族のルーツをたどりたい」――そんな素朴な興味にも応えてくれるのがこの図書館の魅力。調べ方や書籍の選び方も1階の総合案内・相談カウンターで相談できる。気になったキーワードで雑誌や新聞を検索する端末も無料で利用できる。地域誌や古地図を通じて住んでいる地域の歴史を深く学べる。

館内は、緑豊かな公園に囲まれ、静かな環境が心地よい。「グリーンビューシート」では、自然光を浴びながら読書を楽しむことができる。最上階の「カフェテリア」からは東京タワーを望み、麻布界隈を一望する景色が壮観であり、訪れる人々にとって心身ともにリフレッシュできる空間となっている。

また、フリー Wi-Fiと電源、広いデスクを備えた調査研究ルームは、執筆や調査活動に最適な環境が整えられており、静かに集中して作業を進めることができる。学術研究や執筆活動に携わる人々にとって、落ち着いた空間で知を深める貴重な場となっている。

バックヤードの秘密
――貴重な資料を未来へ

バックヤードでは、温湿度管理や粘着マットによるちりやほこり除去など、環境管理が行われている。災害時の対応として、被災資料救済セットが設置され、雨漏りなどによる水濡れ被害への備えも万全。

損傷した書籍の補修には、長期保存の観点からセロハンテープではなく和紙を使っている。また、「書店では手に入らない地域誌や自治体刊行物を収集・保存している」と司書が語るように、都立中央図書館は流通しない資料を後世に残すためにも重要な役割を担っている。こうした取り組みにより、「知の蓄積と保存の場」として、麻布地域に住む人はもちろん都民に開かれた存在となっている。

渋谷区への移転
――新たな知の時代へ

建物の老朽化を理由に、都立中央図書館は渋谷区への移転を予定している。麻布の地でこの歴史ある施設を活用できる機会が最後になるかもしれない。知の探求を楽しみ、貴重な資料を存分に活用してほしい。

図書館では定期的に見学ツアーを開催

編集委員が見てきた普段見ることができない書庫の内部や、貴重な資料の保存環境を学ぶ見学ツアーが開催されている。この機会に足を運び、図書館の舞台裏に触れながら、戦後80年の知の遺産をそっと感じてみてほしい。

⬆都立中央図書館公式サイト イベント一覧

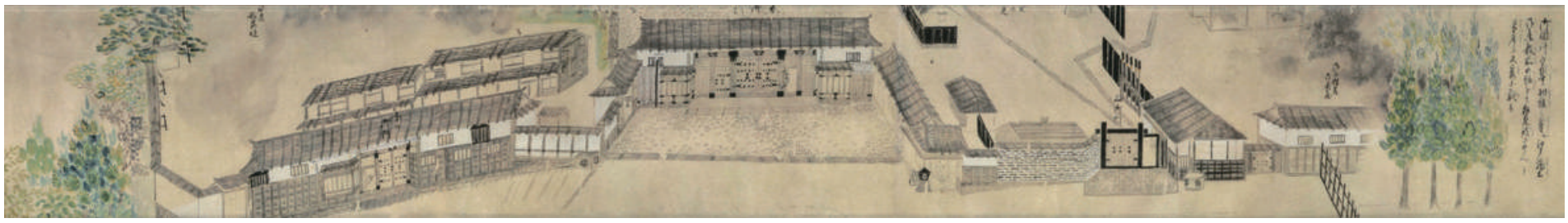
東京都立中央図書館
〒106-8575
港区南麻布5-7-13
電話番号 03-3442-8451
https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/

●取材協力
東京都立中央図書館
企画経営課　企画経営総括担当　中村茂彦さん
情報サービス課　司書　西口真梨奈さん
情報サービス課　司書　増渕凜さん
情報サービス課　司書　浦島琴音さん

取材を終えて

「貴重な資料が丁寧に保存され、知の蓄積の大切さを実感しました」（井上まゆみ）「地下書庫に入った瞬間、古書のインクの香りに引き込まれました」（Sumiko）「快適な閲覧環境は、しっかりした管理体制のおかげだと感じました」（佐藤正子）

（取材／井上まゆみ、佐藤正子、Sumiko　文／佐藤正子）



「琉球人往来筋賑之図」 宇和島藩士・上月行敬（こうつきゆきよし）の筆による。江戸の状況を国許の子弟に知らせるために描かれたもの。右側の一文に「江戸龍土御屋敷前の……」とあることから、宇和島藩上屋敷の表門を描いたものと分かる。往時の様子を克明に絵画として描いた非常に貴重な絵巻。

アートな麻布に魅せられて

麻布の家紋

番外編

伊予 宇和島藩

東京・六本木に建つ国立新美術館。その現代建築の足元に、かつての武家の息吹が眠っていることをご存じだろうか。江戸時代、この一帯は伊予国・宇和島藩の上屋敷であった。切絵図「麻布絵図」にもその名が記されている。宇和島藩を治めていたのは、あの伊達政宗の血を引く宇和島伊達家。その家紋は、仙台伊達家とは異なる「竹に雀」の意匠で知られる。現在当地にその家紋を有した史跡は無い。しかし、その息吹は現在も意外な場所に残っていた。

竹に雀紋

竹に雀紋は、伊達政宗の祖父晴宗の時代から伊達家の紋として用いられ、宇和島伊達家においても初代伊達秀宗以来現在まで代々重んじている紋である。伊達家の紋には他に竪三引両紋（たてみつびきりょうもん）・九曜紋などがあるが、とくに陣幕には竹に雀紋のみを用いると定めており、これは戦に生きる武家としての伊達家の誇りがこの紋に込められていることを意味する。江戸時代以後、仙台・宇和島・吉田の伊達家が竹に雀紋を家紋として用いたが、竹・笹・露・雀のデザインに違いがあり、宇和島伊達家の竹に雀紋は、他との区別からとくに「**宇和島笹**（うわじまざさ）」と称されている。「竹に雀」は取り合わせの良さにもたとえられ、また竹笹で象（かたど）られた丸形のなかには口を開けた「阿（あ）」形と口を閉じた「吽（うん）」形で向かい合う二羽の雀が配されるが、「阿吽」は相対する二つのもの、あるいはそれらを包摂する万物の根源の象徴であるとされている。

上下写真提供：江戸東京たてもの園

写真は、「江戸東京たてもの園」に現存する宇和島伊達侯爵邸の表門。大正期に白金に建てられた。起（すく）り屋根の片番所を付けるなど、大名屋敷の門を再現したような形をしている。総欅（けやき）造りで、門柱の上に架けられた冠木（かぶき）には、宇和島伊達家の家紋が木彫りで施されている。

宇和島伊達家とは？

伊達家といえば、戦国武将・伊達政宗の存在がすぐに思い浮かぶだろう。その大胆不敵な戦ぶりと、隻眼にマントというスタイルで知られる政宗は、今も“伊達男”の語源として語り継がれている。その政宗の血を受け継ぎ、江戸時代に現在の愛媛県宇和島市を中心とする地域を治めたのが、宇和島伊達家だ。初代藩主・伊達秀宗を祖とし、以後9代にわたり宇和島を治めた名家。学問・武芸・文化に秀でた大名家として知られ、藩校「内徳館（後に明倫館と改称）」の設立や、幕末の四賢侯の一人に数えられる宗城の輩出など、幕末の近代化にも大きく貢献した。

麻布に残る、伊達の美意識

江戸・麻布の地にあった宇和島藩邸と、遠く離れた四国・宇和島の文化。現在はまったく異なる風景が広がるこの土地にも、かつては伊達家の人々が暮らし、その家紋がたなびいていた。現代アートの殿堂である国立新美術館の敷地に、かつての武家の美意識がしずかに重なっていることを思うと、麻布の町の時間の重なりがより豊かに感じられてくる。

伊達家家系図

※一部抜粋

- 晴宗（はるむね）（15世）
- 輝宗（てるむね）（16世）
- 政宗（まさむね）（17世・仙台藩祖）
  - 秀宗（ひでむね）（宇和島藩祖）
    - 宗城（むねなり）（8代藩主・幕末四賢侯）
      - 宗徳（むねえ）（9代藩主・侯爵家）
        - 宗信（むねのぶ）（13代当主）
  - 忠宗（ただむね）（18世・2代藩主）
    - 慶邦（よしくに）（29世・13代当主・伯爵家）
      - 泰宗（やすむね）（34世・18代当主）

※宗徳（9代）は宇和島藩最後の藩主
※慶邦（29世）は仙台藩最後の藩主
※［　　］は当代当主
※仙台伊達家では歴代当主の代数を何世と呼び、仙台藩祖となった政宗を伊達家17世と併記して藩祖（初代）と呼び、混同を避けています。

©国立新美術館

●参考文献
公益財団法人宇和島伊達文化保存会ホームページ（http://wwwb.pikara.ne.jp/off-date/index.html）
（財）東京都生涯学習文化財団編『東京都埋蔵文化財センター発掘調査報告第134集　宇和島藩伊達家屋敷跡遺跡―新国立美術展示施設（ナショナルギャラリー・仮称）建設に伴う調査―』（東京都埋蔵文化財センター、2003年）
琉球人往来筋賑之図　玉里文庫　（鹿児島大学附属図書館所蔵）（https://dc.lib.kagoshima-u.ac.jp/item/0126730001）
伊達家伯記念會ホームページ（https://datemasamune.com/history/successive_lord.htm）
江戸東京たてもの園ホームページ（https://www.tatemonoen.jp/restore/intro/center.php）

（取材・文／田中康寛）

佛國大使館近く引越

目的貫徹まで授業を受けず

日大生靖國神社參拜

東京朝日新聞163号1933（昭和8）年1月31日

アントニン・レイモンド設計の建物外観、庭園に面して大きく開かれたファサード（正面）

麻布の軌跡

麻布区富士見町（あざぶくふじみちょう）—在日フランス大使館—

東京都港区南麻布四丁目11番44号、この高台に立つ在日フランス大使館（以下、フランス大使館）は、今から90年以上も前にこの地に居を構えた。1933（昭和8）年1月31日付の東京朝日新聞（写真1）に「佛國大使館近く引越」と題し、麹町区飯田町（こうじまちくいいだまち）（現、千代田区九段南1丁目）から麻布区富士見町へ移転した記事が紹介される。1923（大正12）年の関東大震災は、多くの外国公館に被害をもたらした。その結果、フランス大使館をはじめ皇居付近から麻布を中心としたエリアへ転居した外国公館は少なくなかった。フランス大使館が移転した時代の社会的要因とその経緯を追ってみたい。

広大な土地の真ん中の丘の上に建つ

1階にある大広間。円形ホールからは庭園が見渡せる

Ⅰ、江戸のまちの領事館と公使館

港区立郷土歴史館に所蔵される『周光山済海寺蔵外国書願留（しゅうこうざんさいかいじぞうがいこくしょねがいどめ）』（港区教育委員会編 1987）*1は、1859（安政6）年8月12日より1874（明治7）年の間、寺院側に残された史料である。それに拠ると、同年8月26日にフランス総領事ド・ベルクールにより済海寺（現、港区三田4-16-23）へ公館（総領事館、公使館）が置かれたとされる。

その後、『法規分類大全（ほうきぶんるいたいぜん）』（内閣記録局編）に拠ると、1887（明治20）年5月12日号の官報、官庁事項にてフランス公使館が「麹町区飯田町一町目一番地、二番地旧大隈邸へ移転セリ」との記録がある。恒久的な公使館用地を求めて現在の九段エリアへ、5,658坪の広さの土地に公使館を設置し、1906（明治39）年、ついに公使館から大使館へ昇格する。

Ⅱ、麻布エリアへ移転のなぜ —人口動態と都市化—

『東京府統計書』（東京府編 1915）には、1883（明治16）年から1941（昭和16）年までの東京の現住人口の調査が記載されている。明治時代の山の手の住宅地といえば、主に本郷（小石川区）、牛込（牛込区）、麻布（麻布区）である。1902（明治35）年の現住人口は、小石川区（53,959）、牛込区（61,343）、麻布区（58,600）、フランス公使館が置かれている麹町区（61,580）と目立った人口増加は見当たらない。

興味深いのは次の年1903（明治36）年、東京に3つの会社が電車を開業すると、路面電車へ乗って神田、日本橋へ通勤客が急増する。この時代の山の手の情景を描いた、田山花袋（たやまかたい）の「少女病（しょうじょびょう）」（田山録弥（ろくや）『定本花袋全集第1巻』臨川書店（りんせん） 1993）は、電車に乗り合わせた美しい令嬢方と通勤者である中年男性の主人公が織りなす秀逸作であるが、実際、物語に登場する牛込、飯田町の人口動態をみると、小石川区（152,620）、牛込区（139,887）、麻布区（87,906）は何倍にも膨れ上がっている。しかし、震災後から1926（大正15昭和元）年の飯田町を含む麹町区に限っては、（61,580）から（56,379）と減少が見てとれる。

各国の公館は震災で失われた公館用地を再建するのではなく、都市交通機関の発展にともない市街地が拡大していく時代の流れの中で、人口動態と同様に押し出されるよう外国公館の移転も拡大していったといえるだろう。

Ⅲ、麻布区へ、国内外の新聞に掲載

1923年の関東大震災で、公館等建物の倒壊は免れたが火災による焼失でかなりの部分が被害を受けた。1921（大正10）年から1927（昭和2）年まで大使を務めた、詩人・劇作家でもあるポール・クローデルがその様子を記している。

震災の10年後、麻布区富士見町33へ転居が始まる。「来月早々引越しにとりかかり目下帰国中のド・マルテル伯を新しい大使館へ迎へることとなった場所は麻布富士見町、旧徳川義親侯（よしちかこう）邸を譲り受け、（中略）設計者はロシア大使館と同じチエコ建築家アントニン・レイモンド氏」と1933年1月31日付の東京朝日新聞に掲載される。

本国フランスの挿絵新聞、『L'illustration イリュストラシオン』（1933年9月23日）にも（写真2-4）日本の新しいフランス大使館が紹介される。

（原文は注記へ記載）*2「日本で数年間活躍した建築家のレイモンド氏が設計を担当した」ことで「古い日本家屋の基礎をそのまま残すことができ建設は成功した」としている。また、レイモンドは「<pénétrer>ペネトレ*3に着目し、庭を出来るだけ家に取り込む」ことに重点を置いた。具体的にいえば、建物が南向きの適切な位置に向けられたことで、内部空間が開放され、2階の窓とガラスのドアからは、太陽の光と外からの空気を取り込めている（写真2）。このことは、自然の一部としてあり続けようとする、日本人の建築に求める独自性のあらわれである。つまり、レイモンドが日本建築の本質を理解していたといってよい。

Ⅳ、焼失、解体、そして再び富士見町にて耀き続ける

国内外で高評価だった建造物は太平洋戦争末期の1945（昭和20）年に焼失する。その後、1957（昭和32）年にジャン・プルーヴェを師にもつジョゼフ・ベルモンによる旧庁舎本館（写真5）が建築される。2000年代に入ると高度経済成長黎明期に建築された、モダンで機能美に優れた建物は老朽化に伴い姿を消していく中、旧庁舎も例外ではなかった。2009（平成21）年11月26日から2010（平成22）年2月18日まで一般公開されたアートイベント「NO MAN'S LAND ノーマンズランド創造と破壊@フランス大使館」が開催された。2009年12月、ピエール=ミシェル・デルプシュ、ドミニック・シャヴァンヌの建築により新庁舎の落成式が行われ、現在に至る。

土地高く、富嶽（がく）を望見できるところからおこった富士見町。麻布の南端に位置し周囲の環境に見事に調和され優雅さと伝統に満たされた空間で、国内外の来賓を迎えているのである（写真6）

ジョゼフ・ベルモン設計旧庁舎本館

現在の在日フランス大使館外観
（© KAWASUMI Architectural Office）

＊1 https://www.minato-rekishi.com/museum/2009/10/56.html

＊2「M. Raymond, architecte établi depuis plusieurs années au Japon, fut chargé de la construction et réussit, en conservant simplement les fondations de l'ancienne maison japonaise,」
「consiste à faire ≪pénétrer≫le plus avant possible le jardin à l'intérieur de la maison.」
『L'illustration』（Paris 1933/9/2-1933/12/20）

＊3 <pénétrer>ペネトレとは入り込む、浸透するの意味。

（謝辞）本稿はフランス文学者の鹿島茂氏より賜った「フランス大使館のむかしを調べて」とのアドバイスに拠るところが大きい。貴重な画像をご提供いただいたフランス大使館に感謝の気持ちを申し上げたい。

●参考文献
大出淳、徳永宣孝、根岸徹郎編『日本におけるポール・クローデル：クローデルの滞日年譜』（クレス出版 2010）
『日本歴史地名大系 東京』（平凡社出版 2006）

●写真提供／2-6 在日フランス大使館

（取材・文／おおばまりか）

都税事務所からのお知らせ

耐震化のための建替え又は改修を行った住宅（一定の要件を満たすもの）に対する固定資産税・都市計画税を減免します（23区内）

減免の期間と額は、以下のとおり

- **建替え**：新築後新たに課税される年度から3年度分について全額減免（居住部分に限る）。ただし、減免の対象となる戸数は、建替え前の家屋により異なる。
- **改修**：改修工事完了日の翌年度分から一定期間、居住部分で1戸あたり120㎡の床面積相当分までの税額を全額減免（※耐震減額が適用される住宅については、耐震減額適用後の税額を全額減免）。

減免を受けるには申請が必要です。詳細は、東京都主税局HPをご覧いただくか、下記へお問い合せください。

お問合せ／港区にある物件について 港都税事務所
電話／03-5549-3800（代表）

固定資産税・都市計画税の現所有者申告制度について（23区内）

現所有者申告制度は、土地・家屋の所有者が亡くなられた場合、相続人など新たに所有者（現所有者）となった方から、3か月以内に、ご自身が現所有者であることを申告していただく制度です。制度の詳細は、東京都主税局HP又は下記問合せ先へ。

また、土地・家屋の所有者が亡くなられた場合は、早めの相続登記をご検討ください。

お問合せ／港区にある物件について 港都税事務所
電話／03-5549-3800（代表）

「電子申告手続は税理士」、「納税手続は法人」の場合に、便利な情報をお届けします

法人の都民税・事業税等について、関与税理士がeLTAXで電子申告した場合でも、利用者IDと暗証番号を共有いただければ、法人側で、ダイレクト納付などの電子納税が簡単にできます！

詳細は、eLTAX電子納税チラシをご確認ください。

https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/tax/abut_eltax

令和7年度の固定資産税・都市計画税の軽減措置の継続についてお知らせします（23区内）

①商業地等に対する固定資産税・都市計画税の負担水準の上限引下げ減額措置
②小規模非住宅用地に対する固定資産税・都市計画税の減免措置
③小規模住宅用地に対する都市計画税の軽減措置
④税額が前年度の1.1倍を超える住宅用地等に対する固定資産税・都市計画税の減額措置
⑤耐震化のための建替え又は改修を行った住宅に対する固定資産税・都市計画税の減免措置については、令和7年度も継続します（④については令和8年度まで、⑤については適用期限を令和9年4月1日まで延長）。詳細は東京都主税局HP又は下記問合せ先へ

お問合せ／港区にある物件について 港都税事務所
電話／03-5549-3800（代表）

来所せずにお手続ができます

東京都主税局では、納税者の皆様が都税事務所等に来所することなく、郵送やインターネット等でお手続できる仕組みを設けております。郵送や電子による申告、申請・届出、キャッシュレスによる納付方法等をぜひご利用ください。詳細は、東京都主税局ＨＰをご覧ください。

https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/raicyou

都税の納税証明・評価証明等の申請にはLoGoフォームをご活用ください

証明書等の申請・手数料納付は、パソコン及びスマートフォンから「LoGoフォーム」でお手続が可能です。申請可能な証明等の種類、詳細な手続Q&Aについては、主税局HPをご確認ください。

麻布地区 地域事業

“ちょこっと立ち寄りカフェ”にお越しください

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。

毎月、麻布地区のいきいきプラザ5館で開催しています。ぜひ、ちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアも皆さんのお越しをお待ちしています。

会場及び内容 イベント、講座、ゲームなどを行っています。

◆飯倉いきいきプラザ 東麻布2-16-11	
7/2（水）	みんなで楽しむ ～川柳とハーモニカ～
9/3（水）	ボッチャ大会
10/1（水）	秋のコンサート（ヴァイオリンとギター）
◆ありすいきいきプラザ 南麻布4-6-7	
7/10（木）	赤ハナつけて笑って健康 ～クラウン=道化師登場～
9/11（木）	漢方茶で健康作り
10/9（木）	とんぼ玉作り
◆西麻布いきいきプラザ 西麻布2-13-3	
7/17（木）	フラダンスとウクレレ
9/18（木）	端切れで作るアート
10/16（木）	麻布の歴史や文化を知る（魅力伝承事業）

◆南麻布いきいきプラザ 南麻布1-5-26	
7/23（水）	アロマスプレー作り
9/24（水）	フラダンス ～一緒に踊って楽しむ～
10/22（水）	人生すごろくでおしゃべり
◆麻布いきいきプラザ 元麻布3-9-6	
7/26（土）	サマーコンサート（ピアノ）
9/27（土）	封筒で作るリース ～ペーパーファン～
10/25（土）	ボッチャに挑戦

＊8月の開催はありませんので、ご注意ください。
＊プログラムは変更することがあります。最新のプログラム等は区HPでご確認ください。

時　間 毎回　午後1時30分から午後3時30分頃まで
対　象 どなたでも
参加費 無料
申込み 不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ／麻布地区総合支所区民課保健福祉係　電話／03-5114-8822

令和7年度 港区総合防災訓練（麻布会場）を実施します

過去の災害の教訓を踏まえ、今後発生が懸念される首都直下地震等の災害に備えるために、港区総合防災訓練（麻布会場）を実施します。

日時 令和7年10月19日（日） 9:30～11:30 予定
場所 港区立六本木中学校（港区六本木6-8-16）

対　象 どなたでも
参加費 無料
申込み 不要です。直接会場にお越しください。

詳細は麻布地区総合支所協働推進課のX（旧Twitter）、Instagramをご確認ください。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係　電話／5114-8802

港区麻布地区総合支所だより

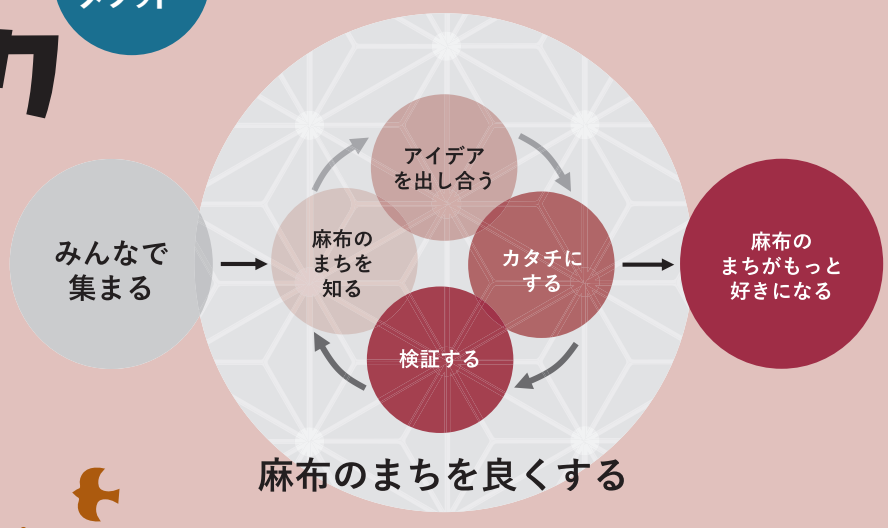
みんなのアイデアでまちを変える　令和7年度「みんな」でまちを「よく」する『ミナヨク』メンバー募集～

OPEN
ミナヨク
みんなでまちを良くする

港区麻布地区総合支所では、「麻布で“地域のちから”活性化事業」の一つとして、「今の時代に合った新しい地域づくりの在り方を検討すること」、「次世代のまちの担い手を発掘・育成すること」を目的として、地域コミュニティ活性化事業である「ミナヨク」を実施しています。

ミナヨク“メソッド”

ミナヨクでは、「麻布」というまちを学び知り、地域の課題解決に向けたアイデアを考え、自らが主体的に地域に関わることで、「麻布」への愛着を醸成します。



地域を学び知る

地域住人と話し、自らの足でまちを歩き、五感を使って地域を感じて、地域の良いところや悪いところを探す。

愛着を醸成する

地域の課題を探し、その課題について話し合い、解決のアイデアを考え、実行する。地域に向き合い関わることで、地域を好きになる。

これまでの取組

令和6年度までに約100名のメンバーと、様々なゲストとの対話、フィールドワーク、地域課題解決のためのアイデア検討、発表等を実施しました。

過去の取組の詳細については、ミナヨクホームページ（下記2次元コード）からご覧ください。

1 麻布を知る
地域行事への参加や準備・片付けに関わることで、地元の人たちとの接点をつくる。

2 アイデアをつくる
麻布で小さな活動をスタートした人たち、暮らしを楽しんでいる人たちからヒントを探る。

3 対話する
麻布に愛着を持つ人たちと対話を重ねることで、視野を広げ、思考を深める。

4 やってみる
「麻布をみんなでよくする」イメージを膨らませ、仲間とともに企画してみる。小さくスタート！

令和7年度「ミナヨク」メンバー募集のお知らせ

～仲間とのアイデア出しやフィールドワークを通じて、地域の活性化に取り組む若い人材を募集します～

開催日程（予定）　※原則、全日程にご参加ください。

Day1	令和7年9月13日（土）	13:00～17:00	キックオフミーティング
Day2	〃　9月27日（土）	13:00～17:00	地域活動の体験・理解①
Day3	〃　10月25日（土）	13:00～17:00	地域活動の体験・理解②
Day4	〃　11月 8日（土）	13:00～17:00	チーミング
Day5	〃　11月29日（土）	13:00～17:00	企画検討
Day6	〃　12月13日（土）	13:00～17:00	実証計画
Day7	令和8年1月17日（土）	13:00～17:00	最終発表

開催場所
東麻布区民協働スペースを予定

対象
- まちの活性化に自ら取り組む意欲のある方
- 麻布でのコミュニティデザインに興味・関心のある方どなたでも
  ※就学前のお子さんの一時保育も可能です。
  （4か月から就学前、3人程度）

定員　約20名　**参加費**　無料

応募方法
- 応募フォーム　右のミナヨクホームページからお申し込みください。

応募期間　令和7年7月28日（月）まで

ミナヨク ホームページ

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当　電話／03-5114-8812

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せくだサイ

住所・氏名・職業（学校名）・電話番号・ご意見・ご要望（日本語又は英語、字数・様式自由）を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電　話／03-5114-8812　●FAX／03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。

「ザ・AZABU」は英語版も4カ月後に発行しています。

買い物するなら地元の商店街で

フォローをお願いします！

麻布地区で開催されるイベントや地域の出来事など様々な話題をX（旧Twitter）、Instagramで配信しています。

@AZABUKYOUDOU
https://twitter.com/minato_azabu1

各支所では、地域情報紙（情報誌）

- 芝地区総合支所「しばタグ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」
- 高輪地区総合支所「みなとっぷ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあっぷ」

を定期的に発行しております。支所内各戸配布のほか、港区立図書館（高輪図書館分室を除く）・各いきいきプラザで閲覧可能です。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木一丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、港区立図書館（高輪図書館分室を除く）、各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所、港区観光インフォメーションセンター等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Staff　飯泉千種　石橋克彦　井上まゆみ　井口真莉奈　おおばまりか　鍵谷芳勝　加生武秀　加生美佐保　佐藤正子　高柳由紀子　田中亜紀　田中康寛　冨田弥生　中村麻美　奈良美扶　畑中みな子　樋口政則　堀内明子　堀切道子　八巻綾子　山崎絢加　Mai S.　Sumiko

編集後記

桜満開の中で行われた編集会議では、武家屋敷の歴史や各国大使館が並ぶ国際色、受け継がれていく神社仏閣、そして都立中央図書館のような文化の拠点など、麻布という街の奥深さについて語り合いました。

新たに加わった編集者の視点も新鮮で、会議や紙面作りの空気も一段とフレッシュに。これまでの良さを大切にしつつ、さらなるブラッシュアップを目指し進んでまいります。

（堀切道子）

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休／午前8時～午後8時　※英語での対応もいたします。

電　話／03-5472-3710　FAX／03-5777-8752
お問合せフォーム／ https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 8a.m.−8p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;
Inquiry submission form: https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html